AOZORA NEWS

あおぞらニコニコ通信

2021 6月号

発行：社会福祉法人三田谷治療教育院
児童発達支援センター 明石市立あおぞら園／児童発達支援事業 明石市立きらきら
〒674-0092 明石市二見町東二見 1836-1 ふれあいプラザあかし西 2 階
TEL.078-945-0280 FAX.078-945-0281 http://sandaya.or.jp/aozoraen/

浅原奈緒子園長のご挨拶

雨の日が多い季節になりました。あおぞら園では通園バスでこどもたちがやってきますが、保護者の方は家からバス停までがたいへんな季節です。毎日、ほんとうにありがとうございます。

雨の日、こどもたちは長靴を履いて登園してきます。長靴はこどもにとって足が入れやすく、自分で靴を履くきっかけにもなります。ほかにも、梅雨の季節には、こどもたちにとっていいことがたくさんあります。一雨ごとに緑が濃くなり季節が夏に近づいていることを教えてくれます。身の回りにある自然が、時は流れていることをこどもたちに見せてくれています。こどもたちは自然の中で育つことで大きく成長していきます。これからも、ちょっと苦手なことはまわりの大人がお手伝いしながら、いろいろなことを経験していってもらいたいと思います。

あおぞら園のこども一人一人をみていると、毎日の生活のサイクルがわかって動いている、職員のことばや絵カードで自分が何をすればいいのかがわかって動いているなど様々ですが、どの子もわかることが増え、自分でできることが増えています。こどもたちは、自分が何をすればいいかがわかれば、自分で動けるようになっていくと改めて感じました。わかってできることが増えていくと、自分が今何をしているかなど自分のことがわかるようになってきます。そして、クラスという集団を意識できるようになったり、ルールを守ろうとするようになったりします。

また、こどもの得意なものや好きなものを生活に取り入れることで、やりたいことも増えてくるようです。コロナ禍、制限のある中での療育でも、できることはたくさんあることに職員たちも気付き始めました。こどもが主役の療育は当たり前のことですが、その当たり前を目指して、職員が組み立てた療育にこどもたちを添わせるのではなく、こどものことをしっかりとみて、こどもが得意なことや好きなことを取り入れた療育を進めていきたいと思います。今後も子どもたちの健やかな成長発達に向けて、職員一同取り組んでまいります。みなさまのご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

絵カードを使い次に行うことを伝えている職員

明石地域自立支援協議会こども部会について

あおぞら園の通信への投稿は、本当に久しぶりです。平成 21 年から約 10 年間園長をしておりました飯塚です。今回は、明石地域自立支援協議会こども部会について書かせていただきます。

私は平成 26 年から自立協こども部会の部会長として活動してきました。明石の障害がある子どもたちの生活が充実することを目的に明石市福祉部障害福祉課、教育委員会、発達支援センターはもちろんのこと、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、相談支援関係者等、こどもに関わる関係者で組織されている団体です。昨年新型コロナウイルスが広がる頃までは最低月 1 回 40 ～ 50 名が会して、研修会、情報共有、ケース検討など実施してきました。残念なことに、昨年コロナの影響により明石市の方針で活動に制限がかかり、会議など全く開催できませんでした。やむ負えないことと思います。1 度だけ、メールで事業所の皆様にコロナ禍でお困りのこと、あるいは代替サービスについてなどお伺いしましたが、とても歯がゆい状態でした。この度、基幹センターのご努力もあり、市もオンラインならと了承していただき、先日 5 月 18 日に 1 年ぶりに通所部会の会議を実施できました。約 20 事業所 30 名の方が参加され、会議の大半は 5 名程度のグループ討議で進めましたが、久しぶりに映像ではありますが、皆さんの元気なお顔を拝見し、本当に嬉しかったです。

あおぞら園でオンライン会議に参加した飯塚理事長（手前）

やはり、皆様のご意見の多くは、「昨年のコロナがわかった時、緊急事態宣言下にこども部会を開き情報を発信してほしかった。」又、「コロナ感染対策の研修をしてほしかった。」等のご意見がほとんどでした。代替サービスに関しても、どの事業所も努力されてきましたが、手立ての共有も可能であったと思います。今後、しばらくはまだ直接の会議は開くことが出来ませんが、とりあえず 2 か月に 1 回オンライン会議を開催することになりました。

これからの課題は、事業所間だけではなく、保護者や子ども達の困り感に寄り添う為の、手立てや情報共有が緊急と思います。やはり、コロナによる不登校が増えたり、児童発達支援事業所や放課後等デイサービスに通う児童の感染予防の教育なども必須です。今回、事務局（基幹センター）担当者もオンラインの準備にご苦労されたと思いますが、大成功でした。オンラインが出来ない事業所の方には、参加できず申し訳なかったので、情報は発信していきたいと思います。

「相談支援連絡会」の報告 ～相談員同士での情報共有～

4 月 28 日、コロナ禍により一時中断していた「相談支援連絡会」が ZOOM にて、開催されました。

相談支援連絡会は、明石基幹相談支援センター主催のもと、計画相談を担当する相談支援専門員の集まりで、それぞれの体験を共有し、共通の課題から地域課題をまとめ、よりよい支援につなげていくことを目的とした会です。

今回は「コロナ禍における利用者の皆様の困難や大変だったこと」や「相談員として、対応が困難だったことや、今後望まれる福祉サービス」等について、話し合われました。利用者の皆様は、どの年代においても、生活リズムが崩れ、立て直しに時間がかかったことなどがあげられました。私個人としては、しばらく、顔を合わせていなかった相談員と情報共有ができ、とても有意義な時間でした。

今現在も、緊急事態宣言の最中であり、まだまだ緊張状態が続きますが、感染症対策を強化しながら、ご家族のお気持ちに寄り添いつつ、この不自由な生活の中でも、少しでも楽しいことや、うれしいことを一緒に見つけられるようなお話ができればと、強く思いました。（小坂田）

オンラインで情報共有を行う小坂田相談員

私があおぞら園で働こうと思ったきっかけ ～きょうだい児としての経験を活かして～

私の弟は以前、あおぞら園を利用していました。私とあおぞら園との出会いは中学生の時のトライやるウィークでした。「弟がいるから」という軽い気持ちであおぞら園を選んだのですが、毎日楽しく実習に通うことができました。その後、きょうだい児としてあおぞら園の行事に参加したときも実習の時と変わらず、先生方に優しく接していただいたのを今でも覚えています。そして、夏休みもボランティアとしてあおぞら園に通い、お子様と関わる機会が増えていくにつれて自分もあおぞら園で働いてお子様の成長を一緒にみていきたいと思うようになりました。

今まで、弟のことで母も私も悩むことがたくさんありました。母は子育てで悩んだとき、あおぞら園の先生に話を聞いてもらって楽になったと話していました。

私自身、あおぞら園の職員として保護者の方とお話をさせていただく度にお母さんの困り事など、たくさん共感できる部分があります。今後もきょうだい児としての経験を活かし、保護者の方に寄り添いながらお子様の成長を見守っていきたいと思います。（徳山）

食事介助を行う徳山保育士

アニメーションで障害理解の啓発活動！

明石市立あおぞら園・きらきらでは支援の必要なお子様に対して療育を行うことと並行して、障害理解を目的に様々な啓発活動に取り組んでいます。この度より分かりやすく各障害の日常や災害時での現状を皆様に知っていただくアニメーションを制作して不定期ではありますが動画を配信していくことになりました。ぜひご視聴いただき忌憚のないご意見ご感想、またはネタもいただけると幸いです。Aozora＆Kirakira world よろしくお願い致します！※あおぞら園 HP か右の QR からご視聴できます。（服部）

Aozora&Kirakira WORLD

障害のある方の日常動画

災害時における障害者の現状動画